第１回海南市立小中学校適正規模等審議会
議事の要旨

日　　時	令和３年９月29日(水) 午後７時～午後９時
場　　所	海南 nobinos　２階　ノビノスホール
委員の出席状況	（下表）
事務局等出席者	○事務局 西原教育長、中野教育次長、藤岡教育委員会総務課長、日高学校教育課長、岡島教育委員会総務課課長補佐、福田学校教育課課長補佐、雨乞教育委員会総務課教育企画係長 ○教育委員（関係者） 露峯委員、中山委員、嶋田委員
議題等	1　開会 2　教育長挨拶 3　委員・事務局の紹介 4　海南市立小中学校適正規模等審議会について 5　会長及び副会長の選出について 6　諮問について 7　議題 （１）審議会の情報公開等について （２）海南市の学校適正配置の取組について （３）海南市の人口動態及び児童生徒数、学級数について （４）小・中学校の適正な学校規模等について （５）アンケート調査について （６）その他 8　その他
審議経過	■教育長挨拶 ■委員・事務局の紹介 ■事務局から審議会の概要を説明。 ■会長及び副会長の選出に当たり互選の方法を協議。

委員の出席状況

添田	児嶋	谷所	熊代	田上	有木	内藤	坂本	新田	田中	郡
出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席	出席

➡「事務局案があれば示してほしい」との提案があり、委員に諮ったところ、異議がなかったため、以下の案を提示。委員に諮ったところ、異議なく承認。

〇事務局案

会　長	添田委員
副会長	熊代委員

■教育長から会長に諮問書を手交

■議題（１）について協議。

➡審議会の情報公開等については「会議の傍聴は認めず、後日、議事録を公開する」取扱いとすることに決定。

■議題（２）について、事務局から説明後、質疑応答。（**質疑等はなし**）

■議題（３）について、事務局から説明後、質疑応答。

■議題（４）について、事務局から説明後、質疑応答。

■議題（５）について、事務局から説明後、質疑応答。

➡アンケートの設問について、委員の意見を参考に、会長と事務局で内容を再検討し、後日、各委員に修正案を送付することとする。

〇再検討を要する点

・児童生徒に対するアンケートにおいて、「問３」の回答に対して「問４」と「問５」を答えるという趣旨が理解しやすい設問にする。

・「良い」と思う点などの設問について、「択一式」、「複数選択式」、「尺度による回答」のいずれを採用するか。

■事務局から次回の開催日程について説明。

※資料の修正点

資料	修正箇所	修正内容	
		修正前	修正後
資料６「小学校教職員用アンケート」	問１の選択肢	ア　６学級以下	ア　**5**学級以下
		イ　７～11 学級	イ　**6**～11 学級
資料６「中学校生徒用アンケート」	問い番号	問２　あなたが通っている学校の…	問**4**　あなたが通っている学校の…
		問３　あなたが通っている学校の…	問**5**　あなたが通っている学校の…
資料６「中学校教職員用アンケート」	問１の選択肢	ア　６学級以下	ア　**5**学級以下
		イ　７～11 学級	イ　**6**～11 学級

質疑応答の内容等

■議題（1）審議会の情報公開等について

【会長】

審議会の会議については、原則として傍聴を認めることとなっているが、「傍聴者がいることで率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれる恐れ

	がある場合」には、傍聴を認めないことも可能なため、傍聴の取扱いについて、あらかじめ審議会の中で方針を決めておきたい。 **【委員】** 私たちは素人のため傍聴が入れば意見を言いづらい。後日、議事録を公開するという形でどうか。 **【会長】** 議事録を公開するということで傍聴は認めない取扱いでよいか。 **【全委員】** よい。 **■議題（３）海南市の人口動態及び児童生徒数、学級数について** **【委員】** 中学校の学級数で令和13年度に急激に減少しているが、何か予想される要因があるのか。 **【事務局】** 現在、生まれている子供の数が急激に減少するため、それに合わせて学級数が減少する。 **【委員】** 急激に減少するという予想はどのように行っているのか。 **【事務局】** この数字は実数であり、その年代の子供が現在 840 人しか生まれていないということになる。 **【会長】** 80 人程度減少しているので、学級数にすると4学級減るということか。 **【事務局】** 中学校については、生徒数が減ることに伴い、1学年2学級が1学年1学級になることによって学級数が減少する。 **【会長】** 学級数については、児童生徒数から単純に計算しているのか。 **【事務局】** 地区別の出生数に基づき、学校ごとに児童生徒数を算出し、学級数を計算している。 **■議題（４）小・中学校の適正な学校規模等について** **【委員】**

	通学距離の基準は往復距離か。 **【会長】** 片道距離である。 **【会長】** 学校規模の標準である「12～18 学級」については、現在、こういった規模の学校はほとんどないため、この規模を目指すということではないと考えていただいた方がよいと思う。審議会では、子供たちの教育環境を整えるためにどのような方法があるのかを考えていただきたい。 **【委員】** 片道４km を歩くのは大変だと思うが、通学方法は集団登校か。それとも家族が車で送迎しているのか。 **【事務局】** 文部科学省が設定している通学距離の基準は４km となっているが、海南市で通学距離が片道４km となっている学校はほとんどない。登校方法については、集団登校としている学校もあるが、保護者が送迎しているケースもあり、市全体としては特に登校方法を決めていない。巽小学校の分校があった校区については、おそらく４km を超えるため、保護者が車で送迎している。 **【委員】** 内海小学校冷水分校があった地区の方は一緒にタクシーに乗り合わせて通学している。学校が閉校となった地区については、４km という定義には収まらないという状況である。 **【委員】** 「資料４」に南野上小学校の児童数と学級が記載されているが、３学級というのはどのような形か。 **【事務局】** １・２年生が１学級、３・４年生が１学級、５・６年生が１学級という形になっている。 **【委員】** 小野田地区について、以前は全員が亀川に通っていたが、今は巽に通っている子供もいる。どちらでも選択できる形になっているのか。 **【事務局】** 小野田地区は基本的に亀川の校区になるが、「資料５」に記載している複合区については、どちらかを選択できる地区がある。また、下校時に保護者が不

在のため祖父母宅に帰宅する必要があるなど特別の事情がある場合に、別の学校を選んでいる例もある。

【委員】
南野上小学校の児童の大半は、九品寺地区から山を越えて通学している。山を越えた後は歩道のない道路を通行しており危険と隣り合わせの状況である。九品寺地区については、貴志川の対岸に中野上小学校が見えているが、中野上小学校に通学することができないのか。

【会長】
おそらく地理的な問題や昔からの線引きがあると思うが、それに関しても、この審議会の場で意見を頂けば、教育委員会で検討の上、対応することも可能と考える。審議会では、統廃合に当たって留意すべき点等についても提言することになるため、各委員が日頃感じている通学や教育環境に対する意見も含めて議論することとなる。

【委員】
通学区域は誰が決めるのか。

【会長】
教育委員会が決める。

【委員】
10 年ほど前に、下津第一中学校では陸上部がなかったため、下津第二中学校に通学している生徒がいた。教育委員会が許可を出して校区を変更することは可能ということか。

【事務局】
小規模な学校では生徒数の関係で多くの部活動を設置できないため、例えば、小学校の時に陸上競技をしていた子が通学する中学校には陸上部がないというケースも出てくる。そういった子が、中学校の部活動を選ぶ場合については、学校の状況を見て変更を認められることとなっている。

【委員】
校区よりも部活動を優先し、学校に目当ての部活動がない場合には、部活動を作るのではなく校区を変えるというのが教育委員会の考えか。

【事務局】
大前提は校区になる。単にその競技をしていたというだけでなく、特別な大会に出場していたなど、その能力を伸ばすことが望ましいと考えられる場合に、相談した上で許可している。

■議題（5）アンケート調査について

【委員】

	小学校児童用アンケートの「問４」と「問５」について、「問３」の回答に関連して「良い」と思う点、「良くない」と思う点を回答させる意図と思われるが、その前提を無視して自分のクラスの良い点などを回答してしまう可能性があるため、「問３」との関係を明記した方がよい。また、「良くない」という言葉を使うことでこちらの意図と異なる回答を引き出してしまうように感じる。 **【委員】** このアンケートは他市を参考にしたのか。それとも海南市の現状に合わせて作ったのか。 **【事務局】** 他市のアンケートを参考にしながら、海南市の現状に合ったものを作成している。 **【委員】** アンケート結果は審議会での審議のみに活用するとのことだが、アンケート回答者に対して結果を返す必要はないのか。 **【事務局】** アンケート結果については審議会で活用することとしているが、審議内容はホームページに掲載することとなるため、結果を返すことは可能と考える。 **【委員】** アンケートは複数の選択肢の中から１つだけ選択する方式となっているが、回答者が考える回答は複数あると考えられるため、１つだけ選ぶのは難しいのではないかと思う。 **【会長】** 選択できる選択肢の数については、例えば「３つ」とすると「３つ」の根拠が必要になるため、「１つ」か「当てはまるもの全て」のどちらかになる。「全て」とすると、全ての項目がそれなりのパーセンテージという結果になると考えられるため、「１つ」とするのが望ましいと考えるが、子供が回答に悩むということであれば「全て」選択する形でもよい。 **【委員】** 事務局がアンケートの内容を考える中で「１つ」という形が望ましいと判断されたと思うので、これでよいと思う。 **【委員】** 「全て」を選択してもパーセンテージはそれぞれ出てくるので集計は可能と考える。

	また、保護者用アンケートの「問４」で、例えば50人の学校で１学級10人となると５学級になってしまうので、この設問は分かりづらいと思う。 **【会長】** 統計的に、複数回答とすると全ての項目が均されてしまい、大きく突出する項目が少なくなると考えられる。 **【委員】** 「１つ」か「全て」の両極の話になっているが「３つ以内」といった選び方でもよいと思う。また、それぞれの項目に対する関心の程度を測りたいのであれば５点尺度での回答方法も可能と考える。 **【会長】** 複数選択とした場合、「１番には挙がらないが２～３番によく挙がる項目」が集計結果では上位になるが、このアンケートで求めている結果とは異なると思う。４点法での回答については、一つの回答方法として考えられる。 **【委員】** 小学校児童の「問４」や「問５」の選択肢にある「運動会などの行事」については、児童数の多寡と関係なく、新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどなくなっているので、「良くない」点として回答すると考えられる。 **【委員】** 児童数が少なくクラス替えがない学校で、いじめられた子がいじめた子とずっと同じクラスになるので登校拒否になったという話を以前に聞いた。アンケートにいじめに関する設問はないのか。 **【会長】** クラス替えがないことで人間関係が固定化するためリセットできないという趣旨だと思うが、直接的な表現は難しいので、「クラス替えがあり、友達をたくさん作ることができる」、「クラス替えがないので、多くの友達を作りにくい」といった選択肢を設けていると考える。